

研修だより

矢島小学校

2

04.4.21

「少人数学級」と「少人数授業」の違い

県の「少人数学習推進事業」<平成16年度『学校教育の指針』(秋田県教育委員会)>をもとにすれば、少人数学習には、「少人数学級」と「少人数授業」の二つの形態があります。

少人数学級	=	学級編成を少人数にするもの。 (秋田県：小学校1・2年と中学校1年で実施)	クラス固定
少人数授業	=	学年をいくつかの少人数集団に分けるもの。 (秋田県：小学校3～6年=国・算・理、中学校2・3年=数・理・英)	クラス枠なし

矢印で示したように、「少人数学級はクラス固定、少人数授業はクラス枠なし」と考えれば分かりやすいでしょう。

では、「少人数学級」で何が変わるのでしょうか？

長南博昭氏(山形県教育庁教育次長)は次のように言います。

少人数学級編成になることによって、確実に一学級あたりの児童生徒が減り、教員数が増える。これだけでも、きめ細かな指導と、一人一人の実態にあった、しかも多様な指導形態が可能になる。
(中略=高橋)

学校を小規模・少人数化するだけで、効果があがるかのような思いこみがわずかにあるが、そうではなく、少人数にあった指導方法、学習環境、また、それを支える指導力がなければ、効果はあがらない。教員一人一人の情熱が不可欠である。

<『学校運営研究』(明治図書)2003.5月号>

粗く言えば、「少人数学級編成によって、個に応じた指導がいっそう可能になる」ということだと考えます。しかし、長南氏も指摘しているように、「少人数に合った指導をしなければ効果なし」だとも言えます。

それじゃあ、「少人数に合った指導」(少人数指導)って何よ？ という声があがるのは無理ありません。

指導要領解説総則編には、この言葉は出てきません。初等教育資料、教育雑誌等を読むと、多少の混乱はありますが、次のように定義できそうです。

少人数指導 = 少人数集団に対する指導(つまり「少人数ならではの」の指導)

少人数ならではの指導とは、「個に応じた指導」を指す

これが、今現在の答えです。